

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
コンピュータの基礎技術Ⅰ	1	○	○	○	○						
コンピュータの基礎技術Ⅱ	1	○	○	○							

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
コンピュータの応用技術	4-2アルゴリズム基礎		
コンピュータの応用技術	4-3データ構造とプログラミング基礎		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、AI「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目) ・人間の知的活動とAIの関係性「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目) ・データを起点としたものの見方「コンピュータの基礎技術Ⅱ」(12~15回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・調査データなど「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(11回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(11回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目) ・仮説検証、知識発見、原因究明、判断支援「コンピュータの基礎技術Ⅱ」(12~15回目)
(3) 様々なデータ活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・自動化技術「コンピュータの応用技術」(6回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「コンピュータの基礎技術Ⅱ」(10~15回) ・サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・個人情報保護「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(3回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目)
	3-2	・匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(3回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(3回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(8回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「コンピュータの基礎技術Ⅱ」(8回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(10回目) ・クロス集計表「コンピュータの基礎技術Ⅱ」(9回目)
	2-2	・データ表現(棒グラフ、折線グラフ)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(11回目) ・データの図表表現(チャート化)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(5回目、11回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(10回目)
	2-3	・データの集計(和、平均)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(10回目) ・データの並び替え、ランキング「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(10回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(10回目)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力
- ・データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力
- ・セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
「コンピュータの基礎技術Ⅰ」(2回目)にてAIの仕組みと発達について機械学習やビッグデータを交えて解説し、続いて提供されるAIサービスを複数挙げて、学生自身にも利用させる。その時にAIから提示された結果について学生自身に検証させることでAIやAIを用いたサービスについて理解を深め、またAIに依存しすぎる危険性やAIが提示した情報を検証する必要性を体験させることで理解を深める。

大学等名 佐久大学信州短期大学部

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 11 人 (非常勤) 39 人

② プログラムの授業を教えている教員数 1 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) 坂江千寿子 (役職名) 学長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)
基盤教育センター
 (責任者名) 佐藤 嘉夫 (役職名) 基盤教育センター長

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称
佐久大学基盤教育センター規程、佐久大学信州短期大学部教務委員会規程

⑥ 体制の目的

 <基盤教育センター>
 社会に対する理解を深め、幅広い視野と豊かな教養を培い、ヒューマンケアを学ぶ上で礎となる素養を身につけるための基礎力の育成を全学的に実施する基盤教育の運営と管理を行い、推進させる目的で本センターは設置された。本プログラムにおいて基盤科目に配置したリテラシーレベルの数理・情報科目は専門科目と連動したものであるとして位置づけられてる。したがって、本プログラムは、専門科目の運営・管理を担う教務委員長を随時(必要に応じ招集する)メンバーに加えて、教務委員会と連携、連動しながら教育の質の向上と改善、進化を図ることのできる体制となっている。

⑦ 具体的な構成員

 <基盤教育センター>
 ・佐藤嘉夫(佐久大学人間福祉学部教授、基盤教育センター長)
 ・下村幸二(佐久大学人間福祉学部教授)
 ・朴 相俊(佐久大学看護学部教授)
 ・中嶋智子(佐久大学看護学部准教授)
 ・長谷川武史(佐久大学人間福祉学部准教授)
 ・関谷龍子(佐久大学人間福祉学部准教授)
 ・三池克明(佐久大学信州短期大学部准教授、学生総合支援センター教務課係)
 ・倉田郁也(佐久大学信州短期大学部准教授、カウンセリング室員)
 ・前川裕子(佐久大学学生総合支援センター教務係職員)
 <教務委員会>
 ・唐澤千登勢(佐久大学信州短期大学部教授、教務委員長)
 ・込山佳代(佐久大学学生総合支援センター教務係職員)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	6%	令和6年度予定	20%	令和7年度予定	50%
令和8年度予定	80%	令和9年度予定	100%	収容定員(名)	100

具体的な計画

修了要件となる科目に選択科目が含まれており、履修者数・履修人数が少ないという課題がある。この課題については以下の方法で解決を目指している。

- ・今日の社会ではAIやデータの活用できる人材を求められており、これは保健医療や社会福祉分野も同様であることを学生に周知する。
- ・履修希望の比較的多い時間帯の時間割の配置や、履修ガイダンスでの科目説明を丁寧に行う。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する全ての科目は、全学生が受講可能になるようにカリキュラムを構成している。今後は履修ガイダンス等で本プログラムの周知をより徹底することを検討している。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

シラバスをWeb配信しており、学生は学内外を問わず自身が所有するスマートフォン等で閲覧できる。また前期・後期開講前に履修ガイダンスを開催しており、そこで本プログラムの目的やメリットの周知徹底することを検討している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学は、令和5年度より学生総合支援センター（STIC）を開設した。高校レベルの基礎学力に不安を感じる学生や、さらに学修意欲のある学生に対して、個別に学修支援を提供する「MANABIBA（学び場）」を設けている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本プログラムを構成する科目担当教員は本学の専任教員であり、オフィスアワーに限らず学生からの相談を受け付ける体制にしている。また科目担当教員が授業や会議などで不在の場合は、学生総合支援センター（STIC）が窓口となり、基盤教育センターに属する教職員が対応する体制を構築している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

基盤教育センター	
(責任者名) 佐藤 嘉夫	(役職名) 基盤教育センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムを所管する基盤教育センターにおいて、各科目の履修状況を定期的に把握している。また、学内のLMSを活用して学生個々の学修状況を経時的に把握できる環境を整えている。履修者には、授業後アンケート(無記名式)で行っており、受講者からの意見を集約しプログラムの改善につなげている。各科目の担当教員から学生へフィードバックも行い、学生教員相互で授業の質を高める努力をしている。現在は修了要件に選択科目があるためか、履修者の増加が伸び悩んでいる。そのため、履修率の向上を図るために履修者の多い時間帯での開講(時間割の考慮)を検討し、学生の数理・データサイエンスAIへの関心を高められるよう工夫してガイダンスを行う。</p>
学修成果	<p>以下の学修成果を達成する教育プログラムを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力の修得 ・データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力の修得 ・セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度を身に付ける <p>上記の達成度は該当する科目において、レポートなどの課題や期末試験等での総合評価により把握している。また本プログラム受講後に、受講者を対象に本プログラムに対する興味・関心の度合いや、AI・データサイエンス分野に対する興味・関心の度合いをアンケート調査しその結果の推移を把握することを検討している。基盤教育センターでは、外部標準化テスト(PROG)を全学年で実施している。PROGのリテラシー項目には「情報分析力」や「課題発見力」を測定しているものもあり、グラフの読み取りや論理的な分析力について、学年や学部別にその傾向を把握することで、本プログラムの評価・改善に活用している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>各科目の授業評価アンケートによると、概ね好評評価を得ており、自由記述回答では「知らないことを学べた」「難しいけど勉強になった」といったコメントが散見される。このことから理解が高まったと実感する学生は多いと考えられる。プログラム全体に関するアンケート調査の実施については現在検討中である。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>現状、授業評価アンケートでは後輩に推奨するかどうかの直接的な質問項目を設けていないため後輩学生への推奨度は不明である。今後、授業評価アンケートに質問を追加するか、あるいは新たなアンケートにて質問するかは検討している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>履修ガイダンスやオリエンテーションにおいて、「今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること」の重要性について周知する機会を設ける。また、オープンキャンパス等で入学前の高校生へ向けた本プログラムの周知も高大接続教育ととらえ、入学後の履修者の拡大につなげる。本プログラムの認定後は、その旨を学内外へ積極的に公表・周知する事で履修者数の向上を図る予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <hr/> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <hr/> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本学は、まだ実施したばかりであり、また調査が不十分であるため、修了者の進路・活躍状況・企業等の評価はいずれも未確定である。今後、修了者、実習先や採用企業等へのヒアリングが必要と思われるが、まだ検討段階である。</p> <hr/> <p>まだ実施したばかりであり、また調査が不十分であるため、修了者の進路・活躍状況・企業等の評価はいずれも未確定の状況にある。修了者、実習先や採用企業等へのヒアリングが必要と思われるが、まだ検討段階である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>各科目に対し実施している授業評価アンケートでは興味関心の度合いを問う設問を選択回答形式問うており、概ね高い評価を得ていることを確認している。より踏み込んだ本プログラムを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」の理解についての調査やシラバスの充実等については検討段階である。また、本学が位置している長野県佐久圏域には先進的なプレメドカル産業も多い。それらの企業でのインターンシップ等を推進することで、これらの理解を深める機会を広げていけるのではと考えている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>開講科目の担当教員は、研究者として数理・データサイエンス・AIに関する知識や技術を活用していることから、これらの分野については継続的に理解を深めている。また得られた知見を踏まえて担当科目の指導に取り組んでおり、一部の教員については教員免許を取得しており教育工学の研究に携わった実績もあるため、学生へわかり易い授業の設計や改善についての知見は高いと考えられる。また開講科目の内容や運営については基盤教育センターで情報収集や助言に取り組む体制を構築している。</p>

コンピュータの基礎技術 I

K121a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1 年
1 単位 前期
金曜 2限 水曜 4限
演習
必修
科目ナンバリング131

三池 克明

【授業の概要】

大学生や社会人として必要とされる情報収集・活用の基礎能力と倫理観を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。また、ビッグデータ時代に求められる課題解決に活用できるデータサイエンスの基礎を学び、社会と情報とのかわりについて学ぶとともに、情報活用における倫理について習得する。

【到達目標】

パソコンやインターネットとの関わり方を学び、情報に対して客観的に考える力を養う。また、大学生や社会人として必要とされるパソコンの基本的な操作方法を身につける。

【学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連】

DP 1、DP 2

【授業計画】

- 第 1 回 **学内ネットワークの使用方法和大学メールの使い方**
PC室の利用方法、LMS(manaba・respon)の使用方法、メール(Microsoft 365)の使用方法
- 第 2 回 **情報のデジタル化とインターネット**
デジタルとは、インターネットとは、検索エンジンの使用方法
- 第 3 回 **情報セキュリティと情報倫理**
情報セキュリティとは、情報倫理とは、著作権の利用について、止揚の考え方に基づく安全性の見極め方
- 第 4 回 **ワープロソフトを使った文書作成1：文章の入力**
日本語入力について、ファイルとフォルダ、Wordで文章入力
- 第 5 回 **ワープロソフトを使った文書作成2：編集と加工**
文書の加工、印刷・PDF変換などの出力について
- 第 6 回 **ワープロソフトを使った文書作成3：ビジネス文書の作成**
ビジネス文書の構造、ビジネス文書の作成
- 第 7 回 **ワープロソフトを使った文書作成4：表のデザイン**
複雑な表の作成、見やすい表のデザイン
- 第 8 回 **表計算ソフトを使った統計処理1：データ入力**
表計算ソフトとは、Excelでの表デザイン、表計算の基礎
- 第 9 回 **表計算ソフトを使った統計処理2：表計算**
表計算、相対参照と絶対参照、データの並べ替え
- 第 10 回 **表計算ソフトを使った統計処理3：グラフ描画**

なぜグラフを作るのか、グラフ作成、他のソフトへの貼り付け

- 第 11 回 **表計算ソフトを使った統計処理4：オープンデータの活用**
オープンデータとは、e-Statの活用、Excelとの連携
- 第 12 回 **パソコンを使ったプレゼン1：編集とデザイン**
プレゼンテーションとは、スライド型プレゼンテーションの制作
- 第 13 回 **パソコンを使ったプレゼン2：アニメーション**
なぜアニメーションをさせるのか、アニメーションの設定、よいプレゼンテーションとは
- 第 14 回 **パソコンを使ったプレゼン3：オープンキャンパス用プレゼンの制作**
最終課題「オープンキャンパス用プレゼンの制作」について、評価基準について
- 第 15 回 **パソコンを使ったプレゼン4：オープンキャンパス用プレゼンの完成・提出**
最終課題の制作と提出

【テキスト・参考書・参考文献】

テキスト：奥村晴彦, 森本尚之著『改訂第4版』基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

(コンピュータの基礎技術 I・II・応用技術、共通)

【成績評価の方法・基準】

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

提出した課題[70%]

【授業時間外学修】

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

【オフィスアワー】

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

【実務経験のある教員等による授業科目】

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、情報機器を十分に活用し短時間で仕上げる方法を解説する。

【その他履修上の留意事項等】

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声をかけてみましょう。

コンピュータの基礎技術Ⅱ

K123a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
1年
1単位 後期
金曜2限 水曜3限
演習
必修
科目ナンバリング132

三池 克明

〔授業の概要〕

大学生や社会人として必要とされる情報活用能力を身につけ、パソコンの基本的な活用方法を学ぶ。またパソコンを活用した表現とデータ分析を学び、情報機器を活用した問題解決能力の習得を図る。

〔到達目標〕

自作、あるいは素材をインターネットから集めることで図解を作成する能力を身に付ける。また表計算ソフトによるデータ分析能力を身に付ける。そしてそれらを活用して作成した資料をレポートなどにまとめる能力を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP1、DP2

〔授業計画〕

- 第1回 **DTP1：DTPとは何か**
本科目について、DTPとは、地図を作ってみる
- 第2回 **DTP2：オートシェイプを用いた図解作成**
マジカルナンバー、Zの法則、色の配分
- 第3回 **DTP3：画像の活用**
画像素材の検索、画像の活用
- 第4回 **DTP4：レイアウトの工夫**
スクリーンショット、画像の加工、箇条書きと字下げ
- 第5回 **ポスター制作1：OCポスターの企画**
制作するポスターの要件について、参考資料の検索
- 第6回 **ポスター制作2：OCポスターの制作**
オープンキャンパスポスターの制作
- 第7回 **ポスター制作3：OCポスターの完成と提出**
オープンキャンパスポスターの仕上げ、提出
- 第8回 **データ分析1：度数分布表とヒストグラム**
平均値の限界、度数分布表とは、ヒストグラムとは
- 第9回 **データ分析2：クロス集計表**
クロス集計とは、相関とは、ピボットテーブル
- 第10回 **レポート作成1：学生生活を改善するための仮説検討**
最終課題「学生生活満足度を向上するには何に取り組むべきか」について、仮説の検討
- 第11回 **レポート作成2：仮説検証のためのアンケート調査**
アンケート調査データの取得、データの加工、データの傾向を探る
- 第12回 **レポート作成3：回答データの分析**

データの分析、分析結果の考察

第13回 **レポート作成4：レポート執筆のためのデータ整理**

レポートの執筆、図表の貼り付け、文章の組み立て方

第14回 **レポート作成4：レポートの執筆**

レポート執筆、校正

第15回 **レポート作成5 レポートの完成と提出**

レポートの仕上げ、提出

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：奥村晴彦, 森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

(コンピュータの基礎技術Ⅰ・Ⅱ・応用技術、共通)

〔成績評価の方法・基準〕

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

提出した課題[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、訴求力のある広告のデザインや、分析データを示すことで上司や顧客に対する説得力のある資料・報告書作成の方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。

コンピュータの応用技術

K125a

信州短期大学部 > 福祉学科 > 学科共通 > 教養科目
2年
1単位 前期
月曜2限
演習
選択
科目ナンバリング133

三池 克明

〔授業の概要〕

今日ではパソコンなどのICT機器があらゆる業務において利用されている。本科目ではパソコンなどのICT機器を「業務遂行の道具」として捉え、卒業後に就く職業で実践できる情報活用能力の習得を図る。

〔到達目標〕

論文などフォーマルな文書執筆や編集を通して、大規模な文書の読み方だけでなく構造の捉え方を身につける。またプログラミングの基礎としてExcelVBAを学ぶことで作業の手順や階層構造を論理的に考える力を身につける。

〔学位授与方針（ディプロマポリシー：DP）との関連〕

DP 2、DP 3

〔授業計画〕

- 第 1 回 **オリエンテーション**
本科目について
- 第 2 回 **パソコン操作の復習**
ビジネス文書の作成
- 第 3 回 **フォーマルな文書の作成1：大規模な文書の作成**
目次・ページ番号・章/節/項構造の文書、文書の階層構造
- 第 4 回 **フォーマルな文書の作成2：文書構造を踏まえた文書作成**
スタイル、セクション区切りの活用
- 第 5 回 **フォーマルな文書の作成3：目次の自動作成**
目次の挿入、目次のデザインと更新
- 第 6 回 **フォーマルな文書の作成4：図表の挿入**
図解の作成、図表の挿入
- 第 7 回 **フォーマルな文書の作成5：大規模文書の仕上げ**
大規模文書の仕上げ、提出
- 第 8 回 **プログラミング基礎1：マクロ機能**
Excelの操作を自動化させるには、マクロとは
- 第 9 回 **プログラミング基礎2：VBAとオブジェクト指向**
Excel VBAとは、オブジェクト指向とは
- 第 10 回 **プログラミング基礎3：分岐構造**
操作に応じて処理を切り替える
- 第 11 回 **プログラミング基礎4：繰返し構造**
処理の繰返し、繰返しと分岐の活用
- 第 12 回 **プログラミング活用1：ユーザー定義関数**
Excel関数の自作、処理の抽象化とは
- 第 13 回 **プログラミング活用2：ユーザーフォームの活用**
ウィンドウを自作する、ボタンなどの配置、クリック時の動作の記述

第 14 回 **プログラミング活用3：フォームとユーザーインタフェース**

Excelワークシートからフォームを開けるようにする

第 15 回 **プログラミング活用4：入力システムの完成**

より使いやすくするには、処理の抽象化、システムの拡張

〔テキスト・参考書・参考文献〕

テキスト：奥村晴彦, 森本尚之著『[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社

(コンピュータの基礎技術 I・II・応用技術、共通)

〔成績評価の方法・基準〕

授業終了時に提出するコメントシート[30%]

提出した課題[70%]

〔授業時間外学修〕

予習：次回の講義資料を確認し、何が分からないか明らかにしておくこと。

復習：講義資料を用いて学習したことを整理し、理解を深め、活用できるようにすること。

なお、1回の授業について、1時間程度予習復習を行うこと。

〔オフィスアワー〕

9:00～17:30（ただし会議、出張等で不在あり）。事前予約は不要です。

〔実務経験のある教員等による授業科目〕

PC研修指導・DTP制作の請負を年数回程度、19年継続している。また大学のICT部門職員（システム管理、データ分析担当）を計8年経験している。これらの経験を踏まえ、ドキュメント作成やExcel VBAを活用したツール開発の方法を解説する。

〔その他履修上の留意事項等〕

とにかく質問する学生ほど良好な成績を修める傾向があります。何でも良いので声を掛けてみましょう。

【 卒業・学位取得 】

		介護福祉士		保育士		国家資格
2年	資格	福祉情報技術 簿記会計 秘書概論 秘書実務 メディカル秘書概論 メディカル秘書実務	生活支援技術ⅤⅥⅦ 介護過程ⅡⅢ 介護総合演習ⅢⅣ 介護実習ⅢⅣ 医療的ケアⅡⅢ演習	保育内容演習 (人間関係・環境・言葉・表現) 乳児保育Ⅱ/子どもの保健Ⅱ 保育内容の理解と方法 (音楽表現ⅢⅣ・造形表現) 保育実践演習ⅠⅡ 福祉施設実習Ⅰ/実習指導Ⅰ 保育所実習Ⅱ/実習指導Ⅱ 福祉施設実習Ⅱ/実習指導Ⅱ	資格	
	一般	アクティビティ・ケア 心理学 日本語表現法	介護の基本ⅣⅤ 生活支援技術Ⅳ 障害の理解Ⅱ	社会的養護Ⅱ 障害児保育ⅠⅡ 子どもの食と栄養Ⅱ	600	発展
	基礎	英語ⅢⅣ 中国語ⅢⅣ コンピュータの 応用技術 ビジネスマナー	<介護福祉専攻> 多職種連携論/福祉ビジネス概論 社会学/社会保障各論/生活文化/足と健康/国際福祉論 インターンシップ/福祉ボランティア	<子ども福祉専攻>	500	展開
			ソーシャルワーク論		400	基幹
					300	
	1年	一般	福祉工学 地域と文化 健康と 生涯スポーツⅠⅡ	介護過程Ⅰ 介護総合演習ⅠⅡ 介護実習ⅠⅡ 医療的ケアⅠ	保育の計画と評価 保育内容演習(健康) 保育内容の理解と方法 (音楽表現ⅠⅡ・児童文化ⅠⅡ) 乳児保育Ⅰ 保育所実習Ⅰ/実習指導Ⅰ	資格
基礎		修学基礎ⅠⅡ 英語ⅠⅡ 中国語ⅠⅡ コンピュータの 基礎技術ⅠⅡ	介護の基本ⅠⅡ コミュニケーション技術ⅠⅡ 発達と老化の理解ⅠⅡ 認知症の理解ⅠⅡ こころとからだのしくみⅠⅡ 生活支援技術ⅠⅡⅢ 障害の理解Ⅰ	教育原理/子どもの保健Ⅰ 保育者論/保育の心理学 子ども家庭支援の心理学 子どもの理解と援助 生活支援技術/社会的養護Ⅰ 子どもの健康と安全 保育内容総論/子ども家庭支援論 子どもの食と栄養Ⅰ/子育て支援	600	発展
			<介護福祉専攻> ヒューマンケア概論/福祉経営学	<子ども福祉専攻>	500	展開
			社会福祉概論/高齢者福祉概論 社会保障概論/障害者福祉概論 保育原理/子ども家庭福祉/人間の理解ⅠⅡ		400	基幹
				300		
		教養科目	専門科目			

佐久大学基盤教育センター規程

(設置)

第1条 この規程は、学校法人佐久学園組織規程第1条の規定に基づき設置される佐久大学基盤教育センター(以下「センター」という)の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(本学の基盤教育の方針とセンターの目的)

第2条 本学の基盤教育は、ひとや社会に対する理解を深め、幅広い視野と豊かな教養を培い、ヒューマンケアを学ぶ上で礎となる素養を身につけるための基礎力の育成を全学的に実施するもので、本センターは、その運営と教育の充実に資することを目的とする。

(組織構成)

第3条 センターに、次の者を置く。

- (1) 基盤教育センター長
- (2) 基盤教育副センター長
- (3) 基盤教育科目を担当する教員(各学部・学科より)4から6名
- (4) 学生総合支援センター職員
- (5) 学長又はセンター長が特に必要と認めた本学教員若干名

(センター教職員)

第4条 本センターの教職員は、学部・学科との兼任を原則とする。また、兼任教職員は、センター業務を連携協力して行う。

2. センター長は、合同教授会の同意を得て、学長が任命する。

3. 副センター長はセンター長の推薦に基づき学長が任命する。

4. 前条3項及び5項の教員は、本学の教員のうちから所属長の同意を得て、センター長が推薦し、学長が任命する。

5. 兼任職員は、事務局長の同意を得て、センター長が推薦し、学長が任命する。

(任期)

第5条 前条に掲げる教職員の任期は、2年とする。ただし、第3条3項及び5項の教員の再任は妨げない。また、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第6条 会議は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 基盤教育の基本方針、運営体制及び組織に関すること。
- (2) 基盤教育のカリキュラム、単位数、履修方法、評価および、これらに関する全学的組織との調整と管理に関すること。
- (3) 基盤教育の教育内容の質の改善や充実に関すること。
- (4) 基盤教育の実施のための予算に関すること。
- (5) 基盤教育に係る独自の教育企画の立案、および実施に関すること。
- (6) 社会人基礎力に関する評価（外部の標準化テストを含む）の実施計画に関すること。

(センター会議)

第7条 センターの所掌事項を審議するためにセンターの構成員から成るセンター会議を置く。センター会議は、センター長が招集し、その議長をつとめる。議長はあらかじめ代理を定めておくことが出来るものとする。

2. 議長が必要と認めセンター会議で同意が得られたときは、本学の委員会等の委員長等の参加を求めたり、他の委員会と合同会議を設定したりすることができるものとする。

(事務)

第8条 委員会に関する庶務（議事録の保管含む）は、学生総合支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、合同教授会の議を経て、学園協議会が行う。

附則

令和5年4月1日より、施行する。

以上

佐久大学信州短期大学部教務委員会規程

(設 置)

第1条 この規程は佐久大学信州短期大学部教授会運営規程第6条第2項の規定に基づき、佐久大学信州短期大学部教務委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、短期大学部の教務関係事務を円滑に遂行するために「教務委員会」（以下「委員会」という。）を設ける。委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) カリキュラムの構成に関すること
- (2) 授業及び休業に関すること
- (3) 学年歴に関すること
- (4) 単位認定に関すること
- (5) 国家試験、各種資格認定に関すること
- (6) その他、短期大学部の教育に関わる事項

(組織)

第3条 委員会は、若干名をもって構成する。

2 委員は、学長と学科長が調整のうえ、教授会で選出する。

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときは速やかに補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は教授会の同意を得て学長が指名する。

2 委員長は会務を総括し、副委員長は委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(招集)

第6条 委員会は委員長が招集する。

2 委員長は次の各号のいずれかに該当するときは、委員会を招集しなければならない。

- (1) 教授会から要求があったとき
- (2) 学長から要求があったとき
- (3) 委員の過半数の者からの要求があったとき

(会議)

第7条 委員会は委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

2 委員会の議事は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

3 委員長は会議の経過及び結果を教授会に報告しなければならない。

(庶務)

第8条 委員会の事務は事務局が当たるものとする。

(補足)

第9条 この規程の運用、解釈等については疑義が生じたときは教授会において決定する。

(規程の改廃)

第 10 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が行う。

付則

1. この規程は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。
2. この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から改定施行する。
3. この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から改定施行する。
4. この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から改定施行する。
5. この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から改定施行する。
6. この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から改定施行する。

大学等名	佐久大学信州短期大学部
教育プログラム名	AI・データサイエンス教育・リテラシープログラム

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和6年度

取組概要

<目的>今日の社会で求められているAI活用能力、データ活用能力として以下の学修成果を目指す。

1. AIの仕組みを理解し、適切に活用するための知識や能力の修得
2. データ活用の有用性を理解し、適切に活用するための知識や能力の修得
3. セキュリティの観点から、AIやデータサービスに対する適切な態度を身に付ける

<修了要件>

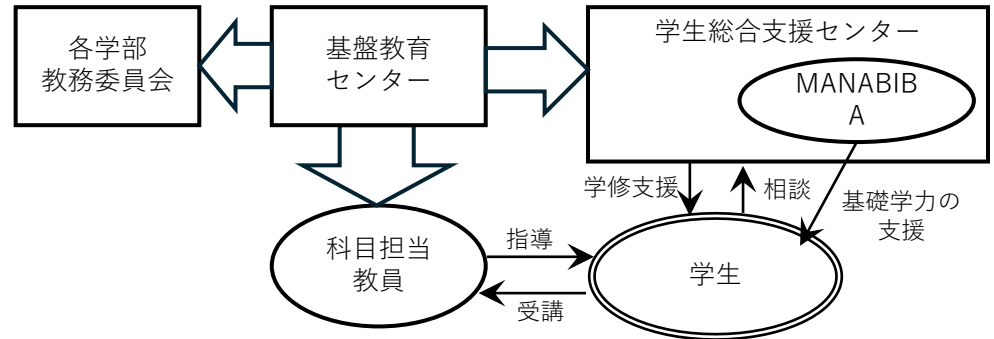
開講される下表の科目を履修をもって修了とする。

1年次前期	1年次後期	2年次前期
コンピュータの基礎技術I (必修1単位)	コンピュータの基礎技術II (必修1単位)	コンピュータの応用技術 (選択1単位)

<支援体制>

以下の組織・教職員が連携して修了の支援にあたる。

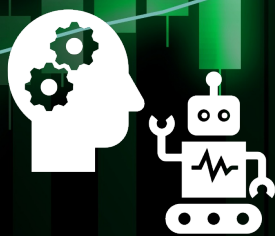
- 科目担当教員
 - ・ 本プログラムに該当する単元の指導
 - ・ 指導内容や評価方法を随時点検し必要に応じて改善
- 学生総合支援センター
 - ・ 受講生の受講状況の把握
 - ・ 修了認定に必要な情報の把握
 - ・ 学修支援サービス「MANABIBA」の運営
- 基盤教育センター
 - ・ 本プログラムの実施状況の把握
 - ・ 各学部教務委員会、学生総合支援センター、科目担当教員と連携して円滑な本プログラムの実践支援
- 各学部教務委員会
 - ・ 各学部のカリキュラムに基づいた本プログラムとの擦り合わせや調整



AI・データサイエンス教育・リテラシー

プログラム

今日の社会で求められている
AI活用能力、データ活用能力の修得を目指します



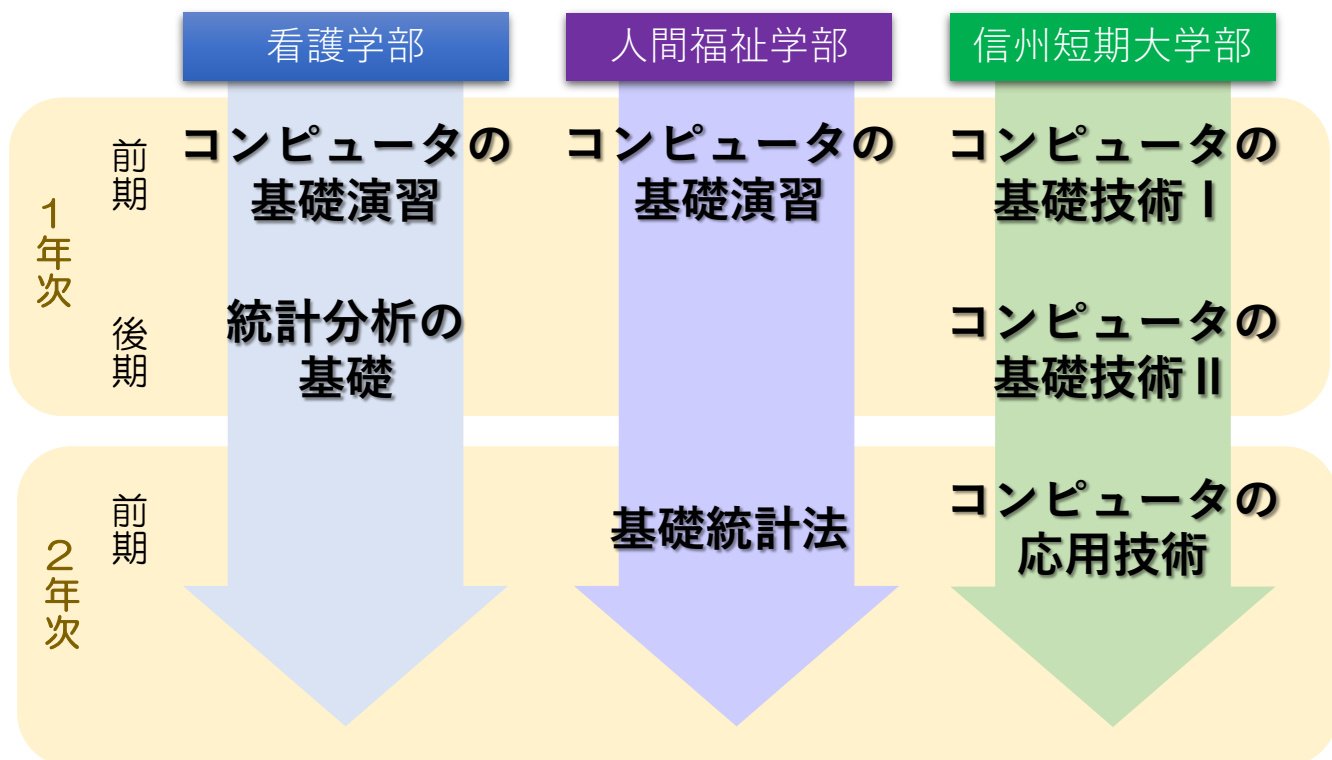
AIの仕組みを理解し、
適切に活用するための
知識や能力



データ活用の有用性を理解し、
適切に活用するための
知識や能力



セキュリティの観点から、
AIやデータサービスに対する
適切な態度



各学部ごとに開講される上記科目の履修・単位認定により本プログラムの修了を認定します

ご質問・ご相談はこちら

学生総合支援センター／基盤教育センター